

教育目標		自ら未来を切り拓き、心豊かに生きる生徒の育成						
重点目標		(1)授業改善を常時行い、「授業がわかりやすい」と答える生徒を増加させる。 (2)魅力ある学校づくりに努め、不登校生徒の減少に努める。 (3)教育相談を充実させ、何でも言える関係づくりに努める。 (4)生徒が主体的かつ積極的に取り組める活動を計画・実施する。 (5)「報・連・相」の重要性を全職員が認識し、風通しの良い職場づくりを行う。						
主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	①授業改善	①教員間による授業参観を実施し、教科部会などで助言や協議を行い、授業力の向上を図る。	①生徒用アンケート「先生は教え方について工夫している」の「よくあてはまる」「ややあてはまる」の割合が95%以上	C	①生徒用アンケート「先生は教え方について工夫している」の「よくあてはまる」「ややあてはまる」の割合が92%と昨年度と比べて1%減少したが「よくあてはまる」の項目については5%増加した。 ②生徒用アンケート「授業内容がわかりにくいことについて、先生に質問しやすい」の「よくあてはまる」「ややあてはまる」の割合が67%となったが昨年度に比べて6%増加した。	①各教科部会において月に一回は授業改善に係る協議を行い、授業力の向上を図る。 ②ICTを効果的に活用(ドリルパーク・スクラウト等)することにより、個別の学力を把握する。 ・質問しやすい環境づくりを充実する。 ・教師間からの積極的なアプローチを継続する。	「授業改善」誰一人取り残さない取組の2つとも達成目標に届かなかったが、昨年より肯定的意見が増加しているのは、取り組みの成果である。質問しやすい環境づくりに関しては、授業中の机間指導の時間も効果がある。
		②誰一人取り残さない取組	②授業後にしばらく教室に残り、質問しやすい環境を作ったり、テスト前の質問時間の充実を図る。振り回しシートを活用し、困っている生徒には教師から声をかける。	②生徒用アンケート「授業内容がわかりにくいことについて、先生に質問しやすい」の「よくあてはまる」「ややあてはまる」の割合が70%以上				「質問しやすい環境づくりの充実」においては、基本的に、生徒と教員との人間関係にあると思われるので、授業以外の場面の関わり方を工夫していただきたい。
	新しい時代に対応した教育の推進 ①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	①情報活用能力の育成	①授業や課題において、ICT機器を用いて、情報の活用(整理・比較・発信・伝達・保存・共有)の方法を指導する。	①生徒用アンケート「授業や課題で、ICT機器(タブレット等)を活用している」の肯定的評価が80%以上	A	①全体で98%(1年92%、2年98%、3年95%)の生徒が肯定的な回答をした。 ②生徒の割合は67%であり、目標は達成している。更に話すこと(スピーキング)を重視して指導していきたい。 ③肯定的回答が92%であり、目標を達成した。しかし、授業と「校務」をともに尋ねる設問であり、単独の割合が不明である。タブレットの活用について、14回シリーズの自主研修を実施した。	①全ての生徒が活用できるよう丁寧な指導・支援に努める。 ②ALTを活用するなど、英語を実践的に使える場の充実を図る。 ③ICT機器やアプリケーションの研修を行い、利活用の促進を図る。また、来年度は授業や課題など生徒の学習に関する項目のみ設問とする。	「ICT機器の活用」に積極的に取り組んでいる。引き続き、効果的な活用方法について模索していくことが大事である。
		②英語教育の充実	②小テスト・週末課題などで基礎基本の定着を図り、「目的」「場面」「状況」に応じた実践的なコミュニケーション能力の向上を図る言語活動を実施する。	②中学校3年生において、CEFR(セフォール)A1レベルの力が認められる生徒の割合が80%以上				
「豊かな心」の育成 ①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	①「いのち」の大切さを実感し、思いやりの気持ちをもつ。豊かな人間性あふれる生徒の育成を目指す。	①道徳教育の充実させるために、ローテーション授業を行ったり、道徳研修会を実施し、道徳教育における指導力の向上に努める。また、LGBTQや震災などの学習を実施する。	①道徳の授業法における研修を受け、全教職員「ローテーション」授業を定期的に実施し、授業力向上に向けて指導案検討を十分に進行。互いの考えや意見が共有でき、多様な価値観に触れることができた。生徒・保護者・教職員のアンケートにて、対象項目の肯定的回答はすべてにおいて85%以上であった。ローテーション授業における指導案検討の時間確保に課題が残った。	B	①「ローテーション」授業に向けて指導案検討を事前に実施し、授業力向上に向けて指導案検討を十分に進行。互いの考えや意見が共有でき、多様な価値観に触れることができた。生徒・保護者・教職員のアンケートにて、対象項目の肯定的回答はすべてにおいて85%以上であった。ローテーション授業における指導案検討の時間確保に課題が残った。 ②生徒指導委員会や保護者からの学年間の情報交換で、情報共有を促し、それぞれの事案に対して即時に対応することができた。生徒・保護者・教職員のアンケートにて、対象項目の肯定的回答はすべてにおいて80%以上であった。一方、しかし校内の校風・風紀に関して、ルールを守らなければならない場面が低下している様子が見られる場面もあった。 ③いじめやSNS・メールの未然防止のための啓発や指導を行っているが、特にSNSにおいて、トラブルに発展する事案も起きている。 ④教育相談部会による情報共有で、SCやSSWと連携し、不登校生等の状況把握に努めた。 ⑤生徒用アンケートの各項目については、「先生は相談にのってくれる」の肯定的回答は、84%と目標値を達成できた。一方、「学校で自分を大切にすることや他の人への思いやりについて教えてもらっている」の肯定的回答が全学年85%以上であった。	①生徒が自分の考えをより深められる授業展開にするため、ローテーション授業において、指導案検討を更に重ねる。 ②教育相談アンケートで、「先生は相談に乗ってくれる」の肯定的回答が目標を達成できたことだが、今後も目標達成に向けて、取り組みを進めていただきたい。 ③道徳教育の充実のため授業力向上に向けて熱心に取り組んでいる。今後、生徒の反応をより観察しながら、考えを深め、道徳性をより継続していくことが大切である。	
		②全教職員で情報を共有し、組織的な生徒指導を行う。	②生徒指導委員会を定期的に開催し、情報提供を図る。教育相談やいじめアンケート等で情報収集を行う。生徒・保護者対象に、スマタやタブレットの利用に関する啓発を行い、SNS・メールなどの問題行動やいじめ事案に際しては全教職員で報告・連絡・相談を徹底し、共通理解を図り対応する。	②生徒指導委員会を週1回開催し、情報交換を行う。また、生徒・保護者・教職員のアンケートにおいて、該当する項目での肯定的回答が80%以上である。			②生徒会と連携し、校則の見直し等を行うことで校則について考える機会を設け、規範意識の醸成を図る。 生徒指導委員会を開催し、SNS等の使用に関する啓発を行ったが、講演会のみでは普段からの教師の声かけ、啓発を継続していく必要がある。 ③今以上に、SCやSSWと連携しているために、ケース会議やアセスメントを通じて、状況把握及び登校に向けた支援をしていく。日々の日常の中で、クラスの中や部活動の仲間と、受け入れ尊重することや自分の良い部分を認識し、伸ばしていけるようなポジティブな声掛けをしていく。 ④地域コミュニティの力を借りながら、登校に向けて働きかけていく。 ⑤学年間、学校間で情報共有を図り、生徒理解を深めることで、不登校や不適応の未然防止を図る。	「道徳」「ローテーション」授業の取組は、アンケートからも「豊かな心の育成」につながっている。継続した取組と改善策の実行を望む。
「健やかな体」の育成 ①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進	①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進	①バランスの良い体力を身につける。	①様々な分野の種目に取組ませる。	①スポーツテストの総合点を向上させる。 ②運動部の減少 ③残食の減少	B	①スポーツテストについては、総合点では向上しているものの、各種別別となると、低下している種目もある。 ②運動部に関しては令和4年度は25名から、令和5年度は現時点で7名であることから、顧問が部長とコミュニケーションをとっており、良好な関係が築けていると考える。 ③残食の減少については、学校全体としては減少しているが、クラス単位で考えると減少傾向にあるクラスもあるで学校全体で取り組んでいる。 ④生徒用アンケートについては、どの学年も80%を超える肯定的意見があったが、再来年に向けて学んだり、考える機会についてはさらに設ける必要がある。	①スポーツテストについては、持久走や縄跳の得点が伸び悩んでいるので、体育の授業で持久力・筋力を鍛えるトレーニングを行う。 ②部活動については現状通り、部員と良好な関係性の中で指導していく。 ③残食に関しては、配膳を行う段階で基本的な配り切れる配膳方法をマニュアル化し、どのクラスでも取り組めるようにする。その中で生徒への声掛けをしていく。	「体力の向上」とともに、生涯にわたって運動やスポーツに関心をもつ意識を育ててほしい。 ③運動部の減少は生徒がやりがいを持って取り組んでいる表れであり、健やかな心の成長につながっている。
		②各活動においてやりがいを感じさせる。	②校内外で活躍の場を作る。	③中学生の摂取カロリーやバランスの良い食事について指導を行う。	③個々の生徒の欠席状況を記録するとともに、学校全体で共有し、多くの目で生徒を支援する体制づくりをする。また、生徒アンケートの「先生は相談にのってくれる」の肯定的回答を全学年85%以上にする。			
教育相談・支援体制の充実 ①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	①系統的なキャリア教育を行う。(1年)自己を見つめ、適性を知る。(2年)職業体験を通じて将来を考える。(3年)自己実現のために適切な進路を選択する。(全学年)キャリア教育の一環として、フォアサイト手帳の活用を充実させる。	①中学校3年間を見据えた進路指導を行う。 ②1年(現在)までの自身の学びを振り返らせる。トライやる、ワークを通して、職業体験を行わせる。社会人としての教育について保護者にはHP、学年連絡帳などを通して情報発信し、理解を深めてもらうよう工夫する。また、学校評価アンケートの「学校は将来について考える機会を設けている」という項目について、1年生の肯定的意見の割合を80%以上にする。1年次から将来について学ぶ機会を増やす。学校評価アンケートのフォアサイト手帳の活用についての項目で、肯定的意見が全学年70%以上になるようにする。	①中学校3年間を見据え、プリント学習やICTを活用した学習を取り入れ、自己の将来について考えさせ、進路に関する情報を、3年生に限らず計画的に実施し、学校で行っているキャリア教育について保護者にはHP、学年連絡帳などを通して情報発信し、理解を深めてもらうよう工夫する。また、学校評価アンケートの「学校は将来について考える機会を設けている」という項目について、1年生の肯定的意見の割合を80%以上にする。1年次から将来について学ぶ機会を増やす。学校評価アンケートのフォアサイト手帳の活用についての項目で、肯定的意見が全学年70%以上になるようにする。	B	①中学校3年間を見据え、プリント学習やICTを活用した学習を取り入れ、自己の将来について考えさせ、進路に関する情報を、3年生に限らず計画的に実施し、学校で行っているキャリア教育について保護者にはHP、学年連絡帳などを通して情報発信し、理解を深めてもらうよう工夫する。また、学校評価アンケートの「学校は将来について考える機会を設けている」という項目について、1年生の肯定的意見の割合を80%以上にする。1年次から将来について学ぶ機会を増やす。学校評価アンケートのフォアサイト手帳の活用についての項目で、肯定的意見が全学年70%以上になるようにする。 ②教育相談部会や生徒指導委員会を週一回開催し、情報交換を密に行う。 ③生徒アンケート「先生は相談にのってくれる」の肯定的回答は1年生82%、2年生82%、3年生84%と概ね達成できた。	①総合的な学習や生活の時間、行事などの実習を記録簿として丁寧に保存し、HPの担当教員と連携し情報発信していく。 ・1年次からの将来を見据えたキャリア教育を継続して行う。 ・清掃後と終礼前の5分間でフォアサイト手帳を記入するよう全校全体で取り組んでいく。 ・年度当初、フォアサイト手帳を配布する際に書き方の指導を行う。 ・期会の会場で、フォアサイト手帳を活用する事例を提示し、共有したりするなど、活用を促すよう工夫する。	「フォアサイト手帳」は、生徒が目的意識を持って主体的に学ぶ力につながり、日常的な指導の工夫ができればよい。 ・トライやるワークは積極的に経験し、学ぼうとする生徒の姿が素晴らしい。中学校での取り組みの成果である。 ・フォアサイト手帳で、1年生が2、3年生と比べて活用率が高いのは、教員のご配慮で、生徒の新しい取り組みへの前向きな姿勢の現れである。2、3年生は学校生活の慣れもあるため、改めて指導を密に行い、活用のメリットに気づくような働きかけをするのもよい。
		②スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を図り組織的な支援を行う。	②担任と生徒指導(学年・全体共に)との情報共有を密にし、SCやSSWへの連携を図り、必要に応じて個別に相談に対応する。また、SCやSSWとのケース会議やアセスメントの内容を学年等で共有し、家庭との連携を図りながら、生徒の状況を把握し、学校全体で生徒一人一人を支援する体制をつくる。	②担任と生徒指導(学年・全体共に)との情報共有を密にし、SCやSSWへの連携を図り、必要に応じて個別に相談に対応する。また、SCやSSWとのケース会議やアセスメントの内容を学年等で共有し、家庭との連携を図りながら、生徒の状況を把握し、学校全体で生徒一人一人を支援する体制をつくる。 ③教育相談部会や生徒指導委員会を定期的に開催し、情報共有の徹底を図る。教育相談やいじめアンケート、OU等で情報収集を行い子どもたちの出サインを見逃さず、適切な初期対応をできるようにする。教育相談期間だけでなくいつでも相談ができるよう、日々の言葉かけや関わりを増やし、生徒と	③個々の生徒の欠席状況を記録するとともに、学校全体で共有し、多くの目で生徒を支援する体制づくりをする。また、生徒アンケートの「先生は相談にのってくれる」の肯定的回答を全学年85%以上にする。			④個別の指導計画は個人情報のため、取り扱いに注意する。しっかりと学年内(場)によっては全職員で共有するようにする。 ・昨年より早期に個別の指導計画を作成した。 ・個別の指導計画の共有については、学年会で十分に時間をとって話せた学年もあったが、十分とは言えない学年もあった。
特別支援教育の推進 ①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実	①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実	①支援体制を整える。	①支援を要する生徒について、外部機関や各学年、生徒指導担当、支援員と連携し、一人ひとりの理解を深める。	①支援を要する生徒について、担任、教科担任、支援員、そして、状況によっては、教指導担当や外部機関との連携を密に行い、情報交換の場をつくる。 ②早期に作成した生徒一人ひとりの個別の指導計画を全教職員が情報共有し、それに基いた指導を心がける。	B	①外部の相談機関やコーディネーター、生徒指導担当、支援員と連携し、生徒のニーズにあった支援を行う。 ・交流担任・教科担任・支援員の間で情報交換を行った。 ・昨年より早期に個別の指導計画を作成した。 ・個別の指導計画の共有については、学年会で十分に時間をとって話せた学年もあったが、十分とは言えない学年もあった。	①個別の指導計画は個人情報のため、取り扱いに注意する。しっかりと学年内(場)によっては全職員で共有するようにする。 ・昨年より早期に個別の指導計画を作成した。 ・個別の指導計画の共有については、学年会で十分に時間をとって話せた学年もあったが、十分とは言えない学年もあった。	
		②特別支援教育についての研修の場をつくる。また、早期に個別の指導計画を作成し、教育的ニーズに応じた指導を行う。	②校内での研修に自主的に参加し、参考となった内容を教職員で情報共有し、質向上に努める。	②校内での研修に自主的に参加し、参考となった内容を教職員で情報共有し、質向上に努める。 ③各教員が授業公開を実施し、授業改善に努める。 ④各教員が「報・連・相」の徹底を意図し、密なコミュニケーションに努める。	③密な連携の元、学校全体で組織的に学校の問題解決に努める。			
教職員の資質向上 ①研修等の充実	①研修等の充実	①校内外で研修に自主的に参加し、参考となった内容を教職員で情報共有し、質向上に努める。	①校内外の研修に自主的に参加し、参考となった内容を教職員で情報共有し、質向上に努める。	①校内外の研修に平均6回以上参加する。また、自主研修会を年間3回実施し質向上に努める。	B	①校内研修については、長期研修の休みを中心に実施しているが、校外研修では、時間の都合上、参加できない教員もいた。2月に1年度教科部会を実施し、また研究授業前には拡大教科部会を実施するなど、概ね達成できている。 ②各教員が授業公開を実施し、授業改善に努める。 ③密な連携の元、学校全体で組織的に学校の問題解決に努める。	①校内研修の質を向上させ、実りある研修にする。 ②来年度も引き続き、公開授業や研究授業の検討を密に行っていく。 ・経験の深い教員が増えていると思うので、校内の研修会や授業研究等の場で、基礎的なことも含めて、丁寧に導いていくことが大切である。	
		②アクティブラーニングの視点での授業改善、ICTの活用などの新たな課題に対応できる教員の育成	②校内研究授業や拡大教科部会を実施し、授業改善に努める。	②各教員が授業公開を実施し、授業改善に努める。 ③各教員が「報・連・相」の徹底を意図し、密なコミュニケーションに努める。	③密な連携の元、学校全体で組織的に学校の問題解決に努める。			
学校を支える組織体制の整備 ①コミュニティ・スクールの充実 ②地域との連携を図り、地域と学校の協働体制を構築する	①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築	①コミュニティ・スクールの充実	①土曜パワーアップ教室の活性化	①土曜パワーアップ教室の参加人数を増やすために告知を教室掲示し、周知を行う。	B	①土曜パワーアップ教室の告知を教室掲示した。また、メール配信も行い、積極的に周知した。結果、部活動が忙しい時期の参加者が増加した。 ②週1回以上のペースでHPに学校行事の様子を掲載した。地域の要請に応じて、生徒が地域活動の補助を行うと共に参加した。	①具体的な数字での目標設定を行い、周知していく。 ・学校運営協議会と協働し教育活動を推進していく。 ②掲載頻度をさらに増やすなど、理解を進める取り組みを進める。	
		②地域との連携を図り、地域と学校の協働体制を構築する	②学校の教育活動や取り組みを地域に周知し、理解してもらうためにHPなどを活用する。	②学校行事や学校生活の様子を定期的にHPに掲載する。	②週1回以上のペースでHPに学校行事の様子を掲載した。地域の要請に応じて、生徒が地域活動の補助を行うと共に参加した。			
教育環境の整備・充実 安全・安心な教育環境の充実	①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設等の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進	①学校園防犯訓練・防災教育の充実	①道徳の授業において防災教育を行った。定期的な避難訓練を通して、防災教育の充実を図る。	①防災マニュアルを職員会議や研修会で周知する。また、年2回火災・地震を想定した避難訓練を行う。	B	①訓練時ある程度の障害(防火扉を閉める、発煙筒を抜く)などを考え訓練を行う。 ②朝礼や終礼、集会などをはじめ、必要に応じて注意喚起を定期的に行うことができる。	①訓練時ある程度の障害(防火扉を閉める、発煙筒を抜く)などを考え訓練を行う。 ②朝礼や終礼、集会などをはじめ、必要に応じて注意喚起を定期的に行うことができる。	「交通安全」に関する生徒の肯定的な評価が目標を上回っており、適切な指導が行われていると評価できる。さらに「よくあてはまる」の評価にまで意識されていることは、よいことと思う。子どもたちの命を守るため、今後も効果的な交通安全の指導に努めて欲しい。
		②子どもの安全対策の推進	②朝礼や終礼、集会などをはじめ、必要に応じて注意喚起を行う。下校指導など定期的に行う。	②交通安全ルールを守る意識を高めるため、講習会を年1回以上行い、登下校指導を定期的に行う。また、朝礼や終礼、集会などを通して、注意喚起を行う。	③生徒アンケート「学校で交通安全を教わってもらっている」の肯定的評価を85%以上にする。なおかつ「よくあてはまる」の評価を50%以上にする。		③交通安全ルールを守る意識を高めるため、講習会を年1回以上行い、登下校指導を定期的に行う。朝礼や終礼、集会などを通して、注意喚起を行う。	「交通安全」に関する生徒の肯定的な評価が目標を上回っており、適切な指導が行われていると評価できる。さらに「よくあてはまる」の評価にまで意識されていることは、よいことと思う。子どもたちの命を守るため、今後も効果的な交通安全の指導に努めて欲しい。
安全・安心な教育環境の充実	①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設等の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進	③交通安全ルールを守る意識を高めるため、講習会を年1回以上行い、登下校指導を定期的に行う。また、朝礼や終礼、集会などを通して、注意喚起を行う。	③交通安全ルールを守る意識を高めるため、講習会を年1回以上行い、登下校指導を定期的に行う。また、朝礼や終礼、集会などを通して、注意喚起を行う。	③交通安全ルールを守る意識を高めるため、講習会を年1回以上行い、登下校指導を定期的に行う。また、朝礼や終礼、集会などを通して、注意喚起を行う。	B	④来年度から北館、技術室、体育館、武道場の工事を進行中。 ⑤来年度から北館、技術室、体育館、武道場の工事を進行中。教師アンケートでは、清潔で美しく整っており、安全の面で評価が昨年度から下がっている。	④来年度から北館、技術室、体育館、武道場の工事を進行中。 ⑤来年度から北館、技術室、体育館、武道場の工事を進行中。教師アンケートでは、清潔で美しく整っており、安全の面で評価が昨年度から下がっている。	
		④学校園施設等の整備・維持保全	④学校園施設の不備について改善を進めていく。	④アンケートの該当する項目での肯定的評価を85%以上にする。				

学校関係者評価総括
・学校として重点的に取り組んだことは、数値目標に達していないものもあるが、確実に成果に表れている。また、一つひとつ細かく振り返られており、対策もよく考えられている。教職員の資質の向上については、教職員自身が主体性を持って、全校挙げて研究への意識が高まるよう取り組んでいただきた。不登校の未然防止については、生徒と保護者、教職員がお互いに尊重し合う良好な関係性を構築し、わかるところ、感動のある学校行事等を通して、生徒たちの自尊感情の醸成を図っていくことを期待する。今年度の北中学校の自己評価に対して、概ね評価する。本年度の成果と課題、北中学校の強みや弱みを分析し、実効性のある改善策を推進していただきたい。

次年度に向けた重点的な改善点
(学力向上)「主体的・対話的で深い学びによる授業改善」を推進する。次年度は特に「習得した知識の活用」の重点を置き、確かな学力の定着を図る。校内研究を充実させ、教職員の授業力を高めていく。
(生徒指導)生徒や保護者とは平日頃からコミュニケーションを取り、良好な関係を維持すること。日常のあらゆる場面で教育相談と連携し、生徒が心理的安全性をもって学校生活を送れるよう支援する。不登校、問題行動については未然防止に努めるとともに、もしも事案が発生した際は、教員間の連携をスムーズに行い、組織的かつ丁寧な初期対応を行う。
(教員の資質の向上)教員自身が主体性を持って教育活動に取り組む。学校教育目標の実現に向けて、自身の置かれた立場で考え、指示を待つのではなく提案型の教員間の関係性を築く。学校行事や授業などでは、前年踏襲に甘んじることなく、獨創性、創造性を発揮して生徒の力量を高める教師集団を築く。